

4 指導法改善のポイント

国 語【小学校第6学年】

正答の状況

年 度		令和3年度	令和元年度
平均 正答数	県	9.4問/14問	9.2問/14問
	全国	9.1問/14問	8.9問/14問
平均 正答率	県	67%	66%
	全国	64.7%	63.8%

今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成果1	目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること
成果2	文の中における主語と述語との関係を捉えること
課題1	文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握すること
課題2	思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うこと

成果が見られた問題の概要

○成果1 設問番号 3二

【設問の概要】

丸山さんの【文章の下書き】
部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す。

【平均正答率 (%)】				
	本県	全国	差	自校
3二	66.5	56.6	+9.9	

【学習指導要領における領域・内容】

〔第5学年及び第6学年〕 B 書くこと (1) ウ

目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるかを問う問題である。条件に応じて下書きを書き直す設問である。

【考察】

長年苦手としていた内容の設問であるが、近年正答率が高まっている内容の設問である。要因としては、鹿児島学習定着度調査にも同様な設問を例年出題しているため、それらの復習を行うことにより学習内容の定着が図られつつあるのではないと思われる。今後も授業において自分の考えを書かせる場を設定し、自分の考えを書かせる場合には、複数の条件を与えて書かせる取組を、継続して行ってほしい。

R2年度の鹿児島学習定着度調査の類似の問題の正答率を見ることにより、自校の取組様子を分析することができる。

R2鹿児島学習定着度調査 大問4三	R2鹿児島学習定着度調査 大問4三
【県通過率】58.2	【自校通過率】

○成果2 設問番号 3三(2)イ

【学習指導要領における領域・内容】〔第3学年及び第4学年〕 言葉の特徴や使い方に関する事項カ

【設問の概要】

丸山さんの【文章の下書き】の中の
部イで~~~~部「残されています」の主語として適切なものを選択する。

【平均正答率 (%)】				
	本県	全国	差	自校
3三 (2)イ	76.7	67.0	+9.7	

課題が見られた問題の概要，問題点とその改善点

課題が見られた問題の概要

【学習指導要領における領域・内容】〔第5学年及び第6学年〕 読むこと ア
 事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができるかどうかを見る問題である。

▲課題1 設問番号 2一

【設問の概要】

面ファスナーに関する【資料】の文章が，何について，どのように書かれているかの説明として適切なものを選択する。

【平均正答率（％）】

	本県	全国	差	自校
2一	72.3	77.6	-5.3	

問題点とその改善点

【授業改善例】

構成を捉えさせるためには，中学年から「事実」と「考え」はどこに書かれているかを問う授業が必要である。
 高学年においては，文章全体の構成について話し合う場面を設定して，「はじめ・中・おわり」に文章を分けると，形式段落のどこで分けられると思うか。なぜそう考えるかを問い，叙述から根拠を探させ，叙述に着目させる授業が求められる。

課題が見られた問題の概要

【学習指導要領における領域・内容】〔第5学年及び第6学年〕 言葉の特徴や使い方に関する事項 オ
 思考に関わる語句の使い方を理解し，話や文章の中で使うことができるかを見る問題である。
 本問題は，思考に関わる語句の使い方を理解しているかを問う問題である。高学年の目標の中に，思考に関わる語句の量を増やすことが書かれている。

▲課題2 設問番号 2二

【設問の概要】

面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する。

【平均正答率（％）】

	本県	全国	差	自校
2二	85.7	87.5	-1.8	

問題点とその改善点

【授業改善例】

- 「読むこと」の学習においては，叙述（思考語彙）に着目させて，その意味や用法を問う場面を設定することが大切である。
- 「読むこと」の授業において，児童の発言の中に「より」という言葉が表現された場合，「より」はどのような意味をもつ言葉かを問い，「他の言葉を使って」表現させる。同じ「より」でも意味用法が違うものがあることを，例文を使って説明する。
 どの言葉に事前に着目させるかを1時間に1語のように決めて授業に臨めるように，教材研究を行っておく必要がある。

国 語【中学校第3学年】

正答の状況

年 度		令和3年度	令和元年度
平均 正答数	県	9.0問／14問	7.0問／10問
	全国	9.0問／14問	7.3問／10問
平均 正答率	県	64%	70%
	全国	64.6%	72.8%

今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成果1	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつこと
成果2	相手や場に応じて敬語を適切に使うこと
課題1	事象や行為などを表す多様な語句について理解すること
課題2	文脈の中における語句の意味を理解すること

成果が見られた問題の概要

○成果1 設問番号 3四

【設問の概要】

「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているか、そのような接し方をどう思うかを書く。

【平均正答率 (%)】

	本県	全国	差	自校
3四	27.5	20.5	+7.0	

【学習指導要領における領域・内容】 [第1学年] C 読むこと オ

本問題は、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができるかをみる問題である。同様の問題は、昨年度の鹿児島学習定着度調査では、中2 4二の3で出題している。平均通過率は70.1%であり、予想通過率を越えていた。

【考察】

授業において、問いに対する自分の考えを文章化して答えさせる活動が行われていることの成果だと考える。学校では教科横断的に様々な教科において、自分の考えを文章化して答えさせる活動を継続して行っていく必要がある。

○成果2 設問番号 4三

【設問の概要】

「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する。

【平均正答率 (%)】

	本県	全国	差	自校
4三	45.0	40.3	+4.7	

【学習指導要領における領域・内容】 [第2学年] 1 (1) ア

本問題は、敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができるかをみる問題である。同様の問題は、例年鹿児島学習定着度調査で出題している内容であり、昨年度の鹿児島学習定着度調査では、中2 1二の3で出題している。平均通過率は60.4%であり、予想通過率は越えることができなかった問題である。

【考察】

敬語を使い慣れさせるためには、具体的な言語活動の場の設定が必要である。誰に対して何のために手紙や文を書くのかを明確にして書かせる場面を数多く設定する必要がある。今回の設問のように、メール文においても、相手に要件を失礼のないように伝えるためにはどのような文面がよいか、授業では生徒が案をもちより、話し合いながらよりよくしていく活動が設定できる。

課題が見られた問題の概要、問題点とその改善点

課題が見られた問題の概要

▲課題1 設問番号 4二

【設問の概要】
「随時」の意味として適切なものを選択する。

		【平均正答率】		
4二	本県	全国	差	自校
	69.2	74.0	-4.8	

【学習指導要領における領域・内容】〔第1学年〕知識及び技能（1）ウ

事象や行為などを表す多様な語句について理解しているかを問う問題である。語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して、文脈中の語句の意味について選択肢で解答する設問である。

▲課題2 設問番号 3一

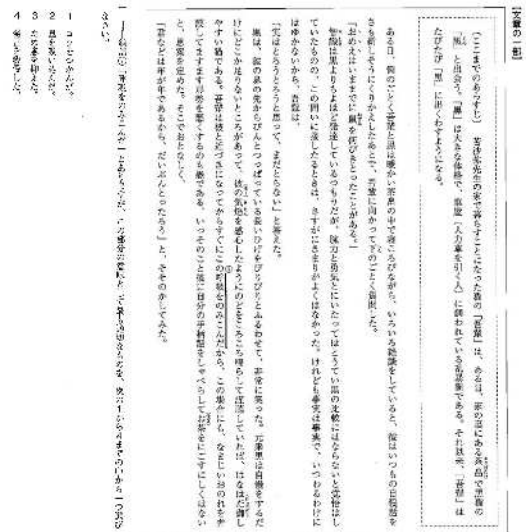
【設問の概要】
「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する。

		【平均正答率】		
3一	本県	全国	差	自校
	41.3	43.7	-2.4	

【学習指導要領における領域・内容】

〔第1学年〕読むこと ア

文脈の中における語句の意味を理解しているかを問う問題である。「呼吸をのみこんだ」の文脈上の意味として適切な内容を選択する設問である。



問題点とその改善点

【設問4二と設問3一で共通する内容】

- どちらの内容も「語彙」の意味理解について問う設問である。

語彙指導については、新学習指導要領において「知識及び理解」の内容として提示されている内容である。語句を話や文章の中で使うことを通して、社会生活の中で使いこなせる語句を増やし、確実に習得していくことが大事である。よって、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の領域の指導の中で、適宜指導していくことが大事である。

【授業改善例】

- 授業を行う前に、当日生徒に着目させたい「語彙」を一つ決めて授業に臨む。
- 生徒が着目した「語彙」の意味について尋ねたり、その言葉をもつ語感について話し合わせたりする。
- 辞書やICTを使って、着目した「語彙」の辞書上の意味を確認させる。
- 着目させたいその「語彙」を使って短文作りに取り組みさせる。

【学校教育全体で取り組む語彙指導】

- 語彙量を増やすためには読書活動が欠かせない。継続的な読書活動を進め、多くの子が本に親しめるような時間や場所を設定する。
- 図書館にある本だけではなく、新聞等も含め、幅広く図書資料に目を向けさせるような取組を全教科で進める。

算 数【小学校第 6 学年】

正答の状況

年 度		令和 3 年度	令和元年度
種 別		算数	算数
平均 正答数	県	11.4問／16問	9.2問／14問
	全国	11.2問／16問	9.3問／14問
平均 正答率	県	71%	65%
	全国	70.2%	66.6%

今回の調査結果から明らかになった成果と課題

- 課題 1** どちらが速いかを比べる際には、単位量を道のり又は時間で比べる場合があり、どちらを単位量として設定しているかについて考え、速さを求める除法の式と商の意味を理解できるようにすること
- 課題 2** 統計的に解決可能な問題を設定することや、設定した問題に対してどのようなデータを集めるべきかを判断できるようにすること

課題が見られた問題の概要，問題点とその改善点

課題が見られた問題の概要

課題 1 設問番号 ① (3) C 変化と関係

【設問の概要】

速さを求める除法の式と商の意味を理解しているかどうかをみる。

(3) たけるさんたちは、博物館の次に城へ行きます。
城へ行く前に、博物館から城までの道のりと時間をインターネットで調べました。

博物館から城までは 1600 m で、20 分間かかるようです。

たける: 私たちが歩く速さと同じくらいの速さなのでしょうか。

ほのか: 私たちは、500 m を歩くのに 7 分間かかりましたよ。

次の表は、インターネットで調べた道のりと時間と、たけるさんたちが歩いた道のりと時間を表しています。

	道のり (m)	時間 (分)
① インターネット	1600	20
② たけるさんたち	500	7

どちらのほうが速いかを調べるために、下の計算をしました。

① インターネット $1600 \div 20 = 80$
② たけるさんたち $500 \div 7 = 71.4\dots$

上の計算からどのようなことがわかりますか。
下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 分間あたりに進む道のりは 80 m と約 71 m なので、①のほうが速い。
- 2 分間あたりに進む道のりは 80 m と約 71 m なので、②のほうが速い。
- 1 m あたりにかかる時間は 80 分と約 71 分なので、①のほうが速い。
- 1 m あたりにかかる時間は 80 分と約 71 分なので、②のほうが速い。

自校の正答率と解答タイプの割合を記入し、誤答の理由を探りましょう。

【平均正答率 (%)】				
	本県	全国	差	自校
① (3)	50.4	55.8	-5.4	

<本県の誤答傾向>

正答	解答類型	本県 (%)	自校 (%)
◎	1 と解答しているもの	50.4	
	2 と解答しているもの	26.6	
	3 と解答しているもの	8.3	
	4 と解答しているもの	11.3	
	上記以外の解答	2.5	
	無解答	0.8	

問題点とその改善点

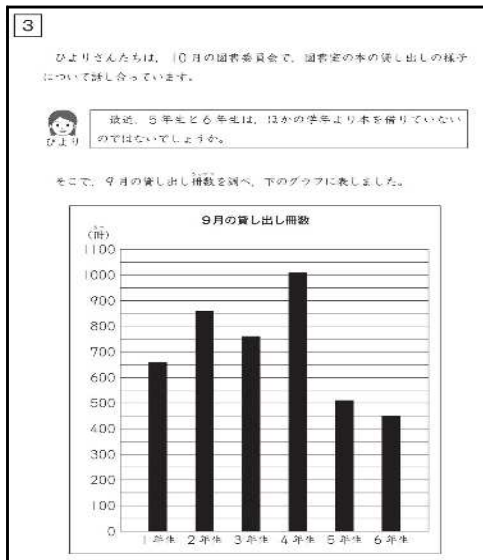
- 単体量あたりの大きさの2量の大きさを混同している。指導に当たっては、どちらが速いかを考える際には、同じ時間で長い距離を進むことの方が速いという日常の経験を想起しながら、1分間あたりに進む道のりの大小について、図にかき表しながら、判断する数学的活動が考えられる。また、1m当たりにかかる時間を考えるときには、50m走などの日常の経験を想起しながら、時間が短い方が速いことを確認することなどが考えられる。授業では、「どうして速いと分かるのですか」と理由を考えさせたり、数直線や図等を用いて表現させたりすることが大切である。

課題が見られた問題の概要

課題2 設問番号 ③ (5) D データの活用

【設問の概要】

集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができるかどうかをみる。



(5) ひよりさんたちは、アンケート調査の結果について、話し合っています。

ひより 図書室には読みたい本が少ないと感じている人や、地域の図書館で本を借りている人が多いことがわかりました。

そらた 図書室でもっと本を借りてもらうために、5年生と6年生の読みたい本を、多くの5年生と6年生に読まれている本を、学校の図書室に置いてもらうことにはどうでしょうか。

そこで、5年生と6年生の読みたい本を、多くの5年生と6年生に読まれている本を、調べることになりました。

5年生と6年生から、どのようなデータを集めるといいですか。

下の1から5までの中から、ふさわしいものを2つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 学校の図書室をよく利用している曜日
- 2 学校の図書室に置いてほしい本の題名
- 3 学校の図書室をよく利用している時間帯
- 4 地域の図書館をよく利用している曜日
- 5 地域の図書館で最近借りた本の題名

	平均正答率 (%)			自校
	本県	全国	差	
③ (5)	72.6	73.9	-1.3	

自校の正答率と解答類型の割合を記入し、誤答の理由を探りましょう。

〈本県の誤答傾向〉

正答	解答類型	本県 (%)	自校 (%)
◎	2, 5を解答しているもの	72.6	
	1, 2を解答しているもの	3.2	
	2, 3を解答しているもの	3.8	
	2, 4を解答しているもの	5.5	
	1, 5を解答しているもの	2.1	
	3, 5を解答しているもの	2.6	
	4, 5を解答しているもの	1.3	
	1, 3を解答しているもの	3.4	
	1, 4を解答しているもの	2.9	
	3, 4を解答しているもの	1.2	
	2のみを解答しているもの	0.1	
	5のみを解答しているもの	0.1	
	無解答	0.7	

問題点とその改善点

- 文意に沿っていない選択肢を選んでしまっている。指導に当たっては、どのようなデータを集めるべきかを話し合う場面を大切にしていくことが考えられる。その際、日頃から誤答にある「1」と「4」の曜日を問う質問肢のように直接関係のない情報を提示するなどして、考える力を育てていく必要がある。具体的には、情報過多あるいは情報不足の学習課題を提示し、ともなって変わる2つの量について考えさせる導入の工夫がある。

数 学【中学校第3学年】

正答の状況

年 度		令和3年度	令和元年度
種 別		数学	数学
平均 正答数	県	9.0問/16問	9.1問/16問
	全国	9.1問/16問	9.6問/16問
平均 正答率	県	56%	57%
	全国	57.2%	59.8%

今回の調査結果から明らかになった課題

- 課題1** 具体的な場面で、一元一次方程式をつくること
- 課題2** 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明すること
- 課題3** ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現すること

課題が見られた問題の概要、問題点とその改善点

課題が見られた問題の概要

課題1 設問番号②

【設問の概要】
数量の関係を一元一次方程式で表す。

- ②** ノート2冊と800円の筆箱1個を買ったときの代金と、ノート4冊と500円のシャープペンシル1本を買ったときの代金は等しくなります。ノート1冊の値段を求めるために、ノート1冊の値段を x 円として、方程式をつくりなさい。ただし、つくった方程式を解く必要はありません。

	【平均正答率(%)】			自校
	本県	全国	差	
②	68.7	71.3	-2.6	

<本県の主な誤答傾向>

正答	解答類型	類型(%)
◎	$2x + 800 = 4x + 500$ 又は $y = 2x + 800$ $y = 4x + 500$ (同値な式であればよい。 代金は y と異なる文字で表してもよい。)	68.7
	上記以外の一元一次方程式を解答しているもの。	6.0
	$2x + 800$ 又 $4x + 500$ と解答しているもの。	4.6
	上記以外の解答	13.6
	無解答	7.0

問題点とその改善点

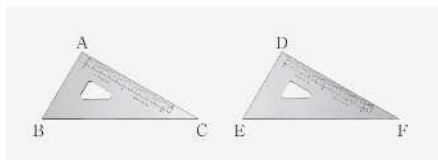
- 右上太枠部分から、文章の読み取り等以前に、18.2%の生徒が「方程式の意味」を理解していない。その他13%の生徒は必要な情報を整理して取り出し活用することができていないものと考えられる。
- 指導に当たっては、数量を表す式や等式、方程式などを比較しながら、言葉の意味を正しく理解することの重要性を丁寧に指導する必要がある。また、文章の読み取りを困難とする生徒に対しては、問題文を目的及び活用する知識を意識して読み取る方法や「分ける」「並べる」「図式化する」等の方法で文中の情報を整理する方法を指導する必要がある。

課題が見られた問題の概要

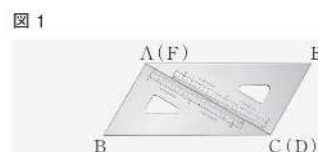
課題2 設問番号①(1)

【設問の概要】
四角形ABCDが平行四辺形になることを、平行四辺形になるための条件を用いて説明する。

- ①** 30° 、 60° 、 90° の同じ三角定規を2つ用意し、それぞれ $\triangle ABC$ 、 $\triangle DEF$ とします。直輝さんと由衣さんは、この2つの三角定規を組み合わせてできる四角形について考えることにしました。



二人は、2つの三角定規を右の図1のように、点Aと点F、点Cと点Dが重なるように並べました。このとき、四角形ABCEができます。



(1) 二人は、前ページの図1の四角形ABCEが平行四辺形になると予想し、予想が成り立つことを示すために、次の図4をかきました。

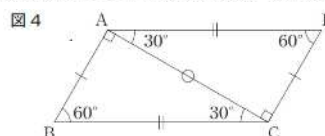


図4において、 $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ は合同なので、対応する辺の長さや角の大きさが等しいことがわかります。
このことから、四角形ABCEが平行四辺形になることは、平行四辺形になるための条件を用いて説明できます。下のア、イのどちらかを選び、選んだ条件を用いて説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。

- ア 2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。
イ 2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は、平行四辺形である。

【平均正答率(%)】				
回	本県	全国	差	自校
(1)	40.8	45.3	-4.5	

(正答の条件) アを選択し、次の(a), (b)について記述しているもの、又は、イを選択し、次の(c), (d)について記述しているもの。

- (a) $AB=CE$ (b) $BC=EA$ (c) $\angle ABC=\angle CEA$ (d) $\angle EAB=\angle BCE$

<本県の主な誤答傾向>

正答	選択肢	類型(%)	
◎	アを選択肢	(a), (b)について記述しているもの。	35.2
		(a)のみを記述しているもの。又は、(b)のみを記述しているもの。	2.2
		上記以外の解答	12.7
		無解答	9.4
◎	イを選択肢	(c), (d)について記述しているもの。	5.6
		(c)のみを記述しているもの。又は、(d)のみを記述しているもの。	11.3
		上記以外の解答	11.5
		無解答	7.9
	上記以外の解答	0.5	
	無解答	3.7	

問題点とその改善点

- 右上太枠部分から、35.5%の生徒は、具体的に向かい合う辺や向かい合う角が等しいことを式で示すことができなかつたり、2つの角が合わさった部分を $\angle EAB=\angle BCE$ のように示すことができなかつたりしたものと考えられる。
- 指導に当たっては、見いだされた図形の性質や説明の根拠となることを数学的な表現を用いて表すことを丁寧に指導する必要がある。また、証明の仕方を理解させ、特に平行四辺形になることの証明についても十分に組みこませる必要がある。

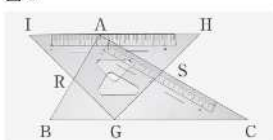
課題が見られた問題の概要

課題3 設問番号回(3)

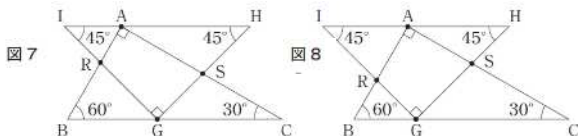
【設問の概要】

$\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く。

(3) 二人は、左に動かす三角定規を、斜辺を底辺としたときの高さが $\triangle ABC$ と等しい 45° 、 45° 、 90° の三角定規に変えて、重なったところにできる四角形について考えることにしました。
右の図6のように、 45° 、 45° 、 90° の三角定規を $\triangle GHI$ とし、辺ABと辺IG、辺HGと辺ACの交点をそれぞれ点R、Sとすると、四角形ARGSができます。



点Gが辺BC上にあり、辺HIが辺BCと平行になるように、 $\triangle GHI$ を左に動かしたとき、二人は、四角形ARGSが長方形にならないと考え、次のような図7、図8をかきました。



二人は、図7、図8で、四角形ARGSが長方形にならないことから、四角形ARGSがどんな四角形になるか話し合っています。

直輝さん「 $\triangle GHI$ を動かすと四角形ARGSの4つの辺の長さはそれぞれ長くなったり短くなったりするよ。角の大きさはどうなるかな。」
由衣さん「 $\angle RAS$ と $\angle RGS$ の大きさはそれぞれ 90° で変わらないね。 $\angle ARG$ と $\angle ASG$ の大きさはどうかかな。」

$\triangle GHI$ を動かしても、四角形ARGSの $\angle ARG$ と $\angle ASG$ の和はいつでも 180° になります。このほかに、 $\angle ARG$ 、 $\angle ASG$ の大きさについて、いつでもいえることを書きなさい。

<本県の主な誤答傾向>

正答	選択肢	類型(%)
◎	$\angle ARG$ 、 $\angle ASG$ のそれぞれの大きさは変わらないことを解答しているもの。	16.0
◎	$\angle ARG=105^\circ$ であり、 $\angle ASG=75^\circ$ であることを解答しているもの。	1.9
◎	上記1、2以外で、 $\angle ARG$ 、 $\angle ASG$ の大きさについて成り立つことを解答しているもの。	8.6
	$\angle ARG+\angle ASG=180^\circ$ と解答しているもの。	9.0
	$\angle ARG$ 、 $\angle ASG$ のそれぞれの大きさは大きくなったり、小さくなったりすることを解答しているもの。	1.8
	上記以外の解答	34.4
	無解答	28.3

問題点とその改善点

- 右の太枠部分から、36.2%の生徒は、いつでもいえることを見いだすことができていないものと考えられる。
- 指導に当たっては、「いつでもいえる」「いつでも成り立つ」と言った表現の理解を図り、いつでも成立する性質や関係について、数学的な表現を用いて表すことを丁寧に指導する必要がある。また、普段の授業の中においても、本設問等のように、事象から性質を見だし(予想を立て)、そのことが成り立つことを数学的な表現を用いて説明するとともに、さらに条件を変え、発展的に考察していく機会を増やしていく必要がある。

【平均正答率(%)】				
回	本県	全国	差	自校
(3)	26.5	28.8	-2.3	